

世界の切手に見る消防関係の切手(11)

平 岩 道 夫 (切手評論家)



(写真①)



(写真②)



(写真③)



(写真④)



(写真⑤)



(写真⑥)

本号では、まず(写真①)と(写真②)のトンガ発行の切手を、とくにご覧いただきたい。

「えッ、だって両方とも同じ図案じゃないか!」

「切手の図案が左右に入れ変わっているだけだろ!」

いや、実は“文字”に問題があるのデス。

(写真①)の切手図案は、海水浴を楽しむ場合、ラジオの天気予報に十分耳を傾けようという意味の図案で、下部におぼれている人を描き、HELP(助けて!)とある。

さて(写真②)に目を移すと、HELP が TOKONI—となっている。つまりトンガの言葉で「助けて!」ということになる。

これでおわかりのように、(写真①)は英語、(写真②)はトンガの言葉で表現されているというわけ。この4枚を実は横一列に連刷した“変わりダネ切手”である。

(写真③)は、ルーマニアから発行された切手で、手押し消防ポンプが描かれている。

(写真④)は、森林火災の恐ろしさはマッチ1本から一を表現したトルコ発行の切手。

(写真⑤)は、フィンランド発行の切手で、初期の消防車を描いたもの。

(写真⑥)は、左下の“赤い新月”(クロワッサン・ルージュ)でおわかりのように、赤十字に代わる活動を続けている団体を紹介した、チュニジア発行の切手。タンカで人を運ぶ一人命救助を描いたユニークな切手である。